

## 令和元年度第三回相談支援部会報告

日時 令和2年1月16日（木） 10時5分～12時

場所 東久留米市役所 704会議室（小）

出席

- ・相談支援部会：松本（身障福祉協会）、武藤（清瀬特支）、上原（リカバリーハウス）、有馬（ゆう）、高原（ぶどうの郷、記録）
- ・障害児支援事業所：島崎（しおん学園）、下田（かるがも）、小柴・辻（シュプロス）、原巻（カーリッジ）、阿部・藤原（ラビットハウス）、小寺・小寺（コペルプラス）、三好・芦野（てんとうむし）、斎藤・南保（あいる）、佐々木（このみ）
- ・事務局 障害福祉課太田係長、藤主査

### 1. 障害児支援事業所の方々に呼びかけて部会を開催した経緯の説明

相談支援部会では、障害福祉計画時のアンケート調査結果等から、各分野の課題を取り上げて議論に努めてきた。しかし、その課題についての関係者が少ないため、議論が深まらず効果的な提言を全体会で行うことが出来なかった。今回は児童分野の課題を取り上げることになり、関係する事業所の方全部に声を掛けて部会を開催した。

### 2. 第3回自立支援協議会報告（有馬）

第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画、部会報告（まちづくり部会（防災、台風被害）、相談支援部会報告（部会のテーマ、次回は障害児支援における課題等））

### 3. 障害児支援について（司会 有馬）

#### （1）児童の相談支援事業所 このみ/佐々木さんからの報告

1982年に、このみが設立され、緊急一時保護・生活援護を行なってきた。1996年より、緊急一時保護事業は、市の事業として、新設のさいわい福祉センターへ全面的に移行した。2010年にイリアンソスの傘下に入り、このみとして学童保育の活動を継続している。

放課後等デイサービスが出来、特別支援学校の下校時になると送迎車が何台も並ぶ光景が見られるようになった。親子の交流の時間が少なくなっている。最近是不登校の子も出てきている。普通学級から支援学級に行っても通えない人も多い。

IQは平均以上だが普通学級には行きたくないという子がいた。小学校を卒業して、中学は支援学級を選んだ。「人間関係を学ぶために支援学級に行きたかった」とのこと。支援学級を卒業してからは普通高校に行き卒業することができた。もし、中学の時普通学級に行ったら自分は崩壊していたかもしれないとの感想を話していた。

このみを利用しながら学校に行っている子は多い。ネット依存、統合失調症、電車へのいたずらなども時々あるが、長い目で見て支援している。昔は、「テレビに子守りをさせないで」というようなことが言われていたが、今はネットの影響が大きい。

公式は得意だが応用問題ができない子もおり、学力を付けて欲しいが、このみでは支援が出来ない。

漢字が覚えられなかった子もおり、その時は歌で覚えてもらった。

わかくさ学園を卒業した子は不登校になりにくい、と言われるのは、親が障害の受容が出来ていることも関係している。親はなんとか「普通学級に戻りたい」と考える方が多い。

親が「生まれてこなければよかった」「施設に入れてしまう」と言ってしまうこともある。誰が悪いと咎めず、親子の悩みを聞き、家族を孤立させないように支援して行きたい。

## (2) 各事業所より意見交換

- ・わかくさ学園の発達支援センターへの移行は良いが定員が減ってしまうことが心配。
- ・児童発達支援センターは、現行のわかくさ学園と職員数は変わらない中で十分な支援ができるのか、心配している。
- ・面談していると、中学に上がるときの不安がある。いじめがおきる心配もある。進路の相談には乗りにくい（福祉、保育のスタッフが多いので）
- ・平成25年に放デイが出来た時、利用者の取り合いになるのではないかといわれていたが、今は空きがなく行き場がない状況。子どもたちはほぼ毎日どこかの放デイに通っていて、子どもに休息の場がない。親から「寝かさないでください」といわれているが、疲れている姿がある。給付日数の限度を全部使う勢いだが、家庭困難など、本当に使うべき子どもが使えていない。
- ・フランチャイズなので本部の研修を受けた職員が、親のニーズを受けてやっている。年に2回体験発表会をやっている。
- ・昨年、レスパイト型から提供型に体制を変えた。ネットワークを作り、学習や進路についての相談にも乗ることがある。
- ・支援級の軽度の方の大変さ、暴力などでスタッフが続かない。
- ・家庭環境に困難のある人が多い、不登校の方などがおり、安全な場所を提供する役目を感じている。
- ・親の会から障害児支援をスタートした。自主保育から始め、児童発達支援、余暇支援をやっている。一貫した長い目で見ていく支援が必要で、それを保護者と共有している。啓蒙活動が必要であり、そのためにもエネルギーが必要で、児童部会が出来て連携して課題に向かっていると良いと思っている。
- ・保育園で統合保育の中で育ったのに、子どもたちの会話の中に「あいつはバカだ」という発言が出てくることにショックを受けた。
- ・支援者によって考え方が違う。それぞれの見立てが重要。すり合わせが出来、共有しながら支援できると良い。「それは親の仕事でしょ」では話が進まない。
- ・支援学校でなく、通信制、サポート校に行った人も「就労は難しい」となることが多い。本人がどうとらえているか、親がどう考えて行くかに関わっていく、関係者、支援者の取り組みが大切。「誰かのせいでそうなった」ととらえないようになればと思う。
- ・うちの事業所にも、発達障害の方がおられるので、今日の会議の内容はつながっていると思った。
- ・障害児と支援者の比率について、10対2という体制が10対4になれば、支援者の人員配置的には多くなるが、逆に事業所を締め付ける。単価の問題もある。成人になって、卒後を考えるためにも連携が大切。子どもを中心に考えたい。
- ・皆様の話を聞き、児童分野の中にも様々な課題や問題があることがわかった。支援についての考え方、方向性、支援方法も、事業所や支援者によって様々なものがあるので、話し合いを持って議論していく中で解決への道筋を探っていく必要性を感じた。今日の話し合いの内容は全体会に報告したい。

#### 4. 情報交換

・障害児サービスのサービス更新時期の変更について、放課後等デイサービスの報酬区分調査についての情報提供（障害福祉課）

#### 5. 今後の相談支援部会テーマについて（各部会委員に）

次回日程、内容については、別途各委員に連絡する。内容の希望があれば後日提案をお願いする。

#### 6. その他 なし